

企画 広報 進行 を

成功

7つの

させるための

心得

其の一

企画の目的や内容をすべて広報する必要はない

家庭教育学級や講座を開く際には企画書を書き、その目的や内容等を明記することと思いますが、それをチラシ等にすべて書く必要はありません。あくまでも、チラシは人を集めるための手段ですから、「楽しそう」「役に立ちそう」「仲間ができそう」としてもらうことが肝心です。

⇒詳しくは、「I 成功例から学ぶ」を読みましょう。

其の二

専門家がよい講師とは限らない

専門家だからといって、必ずしも参加者にとって良い講師になるとは限りません。慎重に選び、入念な打ち合わせをすることが大切です。

講師を選ぶポイントとしては、特に、以下の3点に留意しましょう。

- ①自分だけが話すのではなく、参加者の話を引き出そうとしているか
- ②講座後も、資料等を提供するなど、その後の援助を惜しまないか
- ③可能な限り、実際に講師の話を聞きに行き、分かりやすかったか

其の三

ワークショップは、「アイウエオ」で

ワークショップ形式は、アイウエオの方法と言われます。「明るい・良い加減な・うれしい・笑顔の・おもしろい」のアイウエオです。

「講座活性化プログラム」は、まさにこのワークショップ形式で構成されていますので、ぜひアイウエオの雰囲気をお忘れず進行しましょう。目的や参加者の状況に合わせた場づくりにも気を配りましょう。

其の四

進行役は、助言者ではない

進行役になる人は、参加する保護者よりも子育て経験が豊富であることが多いため、いつの間にか助言者としてふるまっていることがあります。しかし、主体は、あくまでも参加した保護者です。進行役は、「…という考えについて、どう思いますか？」など、**保護者同士の考えをつなげたり、広げたりする役に徹しましょう。**

其の五

参加者の個人情報を持って帰らない、もらさない

参加した保護者が心を開いて、学び合い、振り返りなどで深めることができれば、満足度も効果も高まります。講座活性化プログラムは、「**ひらく**」「**学び合う**」「**深める**」をキーワードにしたプログラムをそれぞれ用意していますので、ぜひ目的や状況に合わせて活用しましょう。

しかし、だからこそ、私的な話題も出てくるが多くなります。進行役として、必ず「**私的な話はここだけに置いて帰りましょう**」などの声かけをすることで、気持ち良く帰ってもらえるようにしましょう。

其の六

講座の質を分析できる評価を！

アンケートは、次回の講座等に活かしてこそ意味があります。保護者にとって価値のある講座や学級だったのか、企画の目的は達成されたのかを冷静に評価し、何が課題なのかを見極める必要があります。また、興味のそそられるタイトルを選ばせる項目なども、次回の広報を考える上で役立ちます。⇒「**Ⅱ失敗例から学ぶ**」のPDCAを参考にしましょう。

其の七

「参加型」から「参画型」へ 親育ちの循環を作る

これまでなかなか人が集まらなかったのに、人が参加するようになってくると、主催者側としてはうれしい気持ちになるものです。

しかし、そこで終わりではありません。参加した人の中から、主催者側になる人を見つけ、**企画・運営に携わってくれる人を育て、親同士がつながる循環を作る**ことが最も大切です。

⇒詳しくは、「**Ⅲ人が集まる循環を作る**」を読みましょう。